

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990800033		
法人名	社会福祉法人 清和会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	高知県土佐清水市加久見1464-279		
自己評価作成日	平成28年7月22日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、利用者様の出来る事は、みんなで協力し合い、助け合いながら生活する。そんな中にも、その人らしく、役割を持った生活を送って頂く。毎日の体操、脳トレーニング、運動、作業レクリエーションなどで他者と楽しい時間を過ごして頂く。事業所は、デイサービス、小規模多機能型事業所など、複合施設の為、合同イベントなどでは、利用者様と一緒に準備を行い、地域の方にも協力して頂き一緒に楽しんでいる。ドライブ、買い物、地域のイベントなど、外出にもでている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JiryosyoCd=3990800033-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年8月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、元小学校を改造した建物にグループホーム・小規模多機能型事業所・デイサービスセンター等が併設された複合施設の2階にあり、各施設の利用者と体操・脳トレーニング・レクリエーション・リハビリテーションを一緒に行うことで、利用者同士の交流ができています。また、広い敷地や元体育館を利用して、事業所主催で納涼祭・運動会・新年の七草がゆのイベントなど多彩な行事を開催し、地域住民の参加を得ながら地域の事業所として定着してきている。

職員は、理念を念頭に「利用者一番、業務が二番」を基本としてケアに取り組んでおり、利用者が閉じこもりの生活にならないように、その人らしい生活を送ることに気を配っている。また、新規職員の入職が他の職員の日常のケアにとって良い刺激となり、職員間だけでなく利用者への思いやりが深まるなどの効果が出ている。

利用者は、多くの行事やレクリエーションの中から自分のやりたいことに取り組み、1日の大半を明るく、風通しの良い居間で居心地よく過ごしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するため、月に1回のグループホーム全体会で理念の唱和を行い、自己反省を行っている。	利用者と「仲良く、楽しく、けじめをつけ接する」ことを基本に、利用者の人格の尊重、可能性の引き出し等を理念に掲げ、理念に沿わない言動が見られた時は、管理者が直接注意したり、全員で話し合ったりしながら理念を確認し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや施設の行事など通じて地域の方々と交流している。又、地域のお祭りや、清掃活動のボランティアも行っている。	事業所へ誰でも気軽に訪問してもらうことを方針にしており、近隣の小学生が立ち寄り、地域のボランティアが踊りやカラオケを催してくれている。事業所主催の納涼祭や運動会を通じて地域と交流しており、近隣住民や家族から果物等が届くことも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に事業所の説明会等随時行い、介護相談を行うなど、認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回併設の小規模多機能型事業所と合同で行い、事業所の報告に参加委員からの意見や質問が出され、運営に生かしている。毎回議事録を作成し、グループホームの便りにのせ家族への報告も行っている。	利用者や家族も参加して会議を開催しており、事業所の活動報告をもとに、意見を交換している。委員からは事業所の防災訓練へ地域の協力を得るため、住民への声かけが提案され取り組むなど、意見を反映している。会議の内容は事業所だよりに掲載して、家族等に周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のケアや事業の運営について相談できる関係が出来ている。また、複合型施設としての地域貢献など助言や協力を得ている。	介護保険に関する書類作成や、事業所での事故報告などを通じて、市担当課とは連絡をよくとっている。運営推進会議や各種連絡会等の意見交換により、相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の考えの基本として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またそのリスクについても、その都度家族に相談するようにしている。	内外の研修により身体拘束をしないケアへの理解を深めており、職員は日々の言動も含め拘束にならないケアの実践に努めている。転倒リスクのある利用者には、ベッドからの転倒防止のために、就寝時は畳を利用するなど家族と話し合いながら取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止の研修に参加し、研修内容の報告を受けて職員間で共有し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受けており、状況に応じて職員間で話し合いの機会を持ち、利用者の権利を守る支援に取り組んでいきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やその解除に当たっては、利用者、家族に管理者が説明を行い、十分納得していただいた上で署名していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からのご意見には、その都度納得していただけるよう対応を行っている。年に2回、家族会を開催し、その際にはご家族同士が意見交換できる場を作り、交流の機会を持っていたい。	県外在住の家族が多いが、家族の集まりを計画し、年2回の家族会を開催している。家族会以外に、家族とはケアマネジャーがケアプランに関すること、職員が利用者の日常生活に関する事で連絡をとり、意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は、月1回の全体会や、問題や疑問が生じた際、随時聞き取りを行い、説明や意見を反映して改善できるように努めている。	複合施設の全体会で職員と意見を交換している。また法人に各種委員会が設置され、職員による話し合いのなかでケアに関する言葉遣いの注意事項や、車イス介助の際の言葉かけ等を取り決め、全職員で実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等について定期的に把握し、職員による自己診断も行い、職務意欲の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発のため研修情報をファイルして提示し、また、職場内研修や外部の研修の機会を設け参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と意見交換を行う機会を持ち、サービスの向上につなげている。また、市内のグループホームの集いを持ち、合同運動会やお花見などを開催し、交流を深める取り組みを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集や傾聴、観察により早期に利用者スタッフとの信頼関係を構築し、落ち着いて穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の意向、要望を聞き、入居後もご家族との信頼関係を築き、協働して支援していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や家族の意向等を踏まえ、必要なサービスや、今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の様子を敏感に察知するように努めながら、職員も日常生活全般を共に行うものとしての関係を築き支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に情報交換を行い、本人の要望や暮らしぶりなどを共有すると共に、家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内の他事業所の昔なじみの利用者と、面会してゆっくり過ごす時間が持てるようにしたり、地元に戻ったり、思い入れのある行きたい場所に外出できるように支援している。また、外出先での知人との再会は大切にして、関係の継続を図っている。	併設のデイサービス事業所及び小規模多機能型事業所の馴染みの利用者との交流のほか、事業所の納涼祭等のイベントや買い物に行った時等に馴染みの人と再会したり、出身地の祭りに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者間の会話の架け橋となり、孤立することなく過ごせるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、お見舞いや手紙などにより事業所の近況報告などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごすことで思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は、家族や知人からの情報収集を行い、表情を見ながら意向を推し量る様にしている。また、耳の聞こえない利用者に対しては筆談で会話し、表情や態度で思いを察し、本人本位の支援が出来るように努めている。	様々なケアを通して、会話や仕草から利用者の思いをくみ取り、職員間で話し合いながら支援している。把握した思いや意向はフェイスシートや電子機器等に記載・保存しているが、職員間での共有や記載不足のところがあがる。	利用者や家族との関わりの中で把握した、生活歴も含めた情報を記録・整理する中で、職員全員が利用者の全体像が把握できるような記載方法を検討し、共有して支援に反映していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いや、関係先からの情報により、本人が日課としていた事や仕事、趣味などを把握しケアしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、アイパッドの申し送りを活用して、把握と情報の共有に努めている。その日あった様子なども記載し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見も聞き、担当制による職員のアセスメントやモニタリングを踏まえカンファレンスを行っている。介護計画は6ヶ月を基本に見直しているが、状況の変化がある時はカンファレンスや担当者会を行い、その都度見直すようにしている。	日頃の関わりの中で得た利用者の情報や、家族から電話等で確認した意向を基に、担当職員、ケアマネジャー、管理者、その他の職員でカンファレンスを行い、6カ月に1回又は利用者の状態変化時に、利用者の現状に即した内容で介護計画を作成し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録を整備し、職員間で情報を共有すると共に、意見交換を行いながら介護計画や日々の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズには、必要性があると判断した場合は即座に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が穏やかに楽しく安心して暮らす事が出来るよう、地域の自治体の行事などには積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の受診が主であるが、利用者家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院介助は事業所がほぼ行っているが、家族にも同行のお願いをしている。受診結果については、家族に連絡すると共に職員間でも共有している。	利用者全員が希望して、協力病院をかかりつけ医としており、事業所職員が通院を介助している。他病院への受診は家族が同行し、病状に変化があった時は事業所と連絡しあっている。受診結果は日誌と個人カルテに記載し、職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師は配置していないが、施設内には常時、看護師がいるため相談し、病院とも密に連絡をとり、必要時には受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、退院後も医療機関とは常に連絡をとり、利用者の状態の把握に努め、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置していないが、施設内には看護師いる為、状態が重度化の方向に向かった場合でも相談しながら、早期発見と早期受診を行っている。現時点で看取りは行っていない事、状態が悪化した場合は連携している病院に入院となるが、退院後の受け入れは相談に応じることを契約時伝えるようにしている。	併設の事業所に配属されている看護師の協力が得やすく、病態変化時等の対応は可能であるが、重度化に伴い医療支援が必要になった場合は、事業所で看取りはできず、協力病院や併設施設への受け入れ等により納得した最期を迎えられるよう支援することを入居時に説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を終了しており、急変時には、管理者や、指定病院の指示のもと対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練と3ヶ月に1回の自主訓練で、年間6回の防災訓練を行っている。また、運営推進会議後委員に参加いただき、防災訓練を行ったり地域の協力体制を確立するための取り組みも行っている。備蓄は2日分の食材を常時確保しており、カップ麺、カンパンなど準備している。	年2回の防災訓練には消防署の協力があり、事業所がある2階からの避難方法などについて助言を得ている。また、3カ月ごとに自主訓練を行っている。訓練は地域住民にも声をかけ協力を依頼している。2日分の毎日の食材の他に、3日分を目安に非常用食糧を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所全体で行う理念の周知の取り組みでも、守れているかの確認と自己反省を促し、日常のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応が徹底できるように取り組んでいる。	利用者の尊厳に配慮し、「トイレ誘導時は大きな声かけをしない」、「排便の有無は聞かずに嗅覚等で確認する」、「トイレには入らずドアを閉める」等、排泄に関しては特に注意している。また、利用者の事業所での生活や個人情報は外に漏らさないことを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、さりげなく希望や要望を把握するように努め、利用者がその人らしい生活を送れるように自己決定できる場面作りを行うなど支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、体調や気分に応じた環境を整え、声かけのタイミングを工夫するなど、その人らしく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、施設内での散髪を行い、ひげ剃りは毎日行っている。起床時のケアも声掛けにて促している。レクリエーションなどで、おしゃれ教室を行い、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の摂取量は個々で違うが、全員に同じ量を提供し、食事量の確認を行っている。食事の準備、片付け、盛り付けなどは一緒に行う。施設全体での給食委員会を行い、栄養士が献立、食材提供を行っている。	献立や食材調達は業者に委託しているが、栄養士が栄養バランスに関わっている。利用者は野菜を切ったり、盛り付けをし、食器を運びテーブルを拭く等、職員と一緒に食事を準備し、食事時は利用者同士の雰囲気大切に、テーブル席に配慮し楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い献立を提供してくれ、食事量や、水分量は、その都度確認し水分は1日、1500～2000mlを摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけして口腔ケアを行っている。状況に応じて介助しながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者がトイレでの排泄を行っているが、失禁のある利用者については、排泄パターンを考慮し、排泄チェック表をチェックしながらトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	現在、排泄が自立している利用者が半数程度おり、その他の利用者は紙パンツや尿とりパッドを使用し職員のトイレ誘導により、排泄を支援している。自立していた利用者が、入院しておむつ使用になった場合も、退院後は支援によりほとんどの利用者が自立できている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、水分量や食べ物の工夫や運動など、主治医の指導を得ながら支援している。又、週1回ヤクルトの訪問販売をお願いしており、希望者にはヤクルトやヨーグルトでの便秘解消も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調を考慮しながら、利用者の希望に沿って入浴を行うようにしている。入浴を拒む場合も、生活のリズムや習慣を把握して声かけをすることで、楽しく入浴できるように図っている。	入浴を嫌がる利用者には声掛け等を工夫しながら、最低でも週2回は入浴につなげている。希望があれば毎日の入浴も可能であり、毎日足浴する利用者もいる。入浴剤を使って、入浴を楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して、本人の希望や体調を考慮しながら空調管理を行い、本人が好きな時に横になったり、就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬の理解や、服薬の変更があった場合は、業務日誌や申し送りノートにより、職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花、野菜の水やり、掃除、洗濯、食事の準備、片付けなど 利用者の得手、不得手を把握し、日常生活の中で、好きな事、楽しみな事など、場面作りに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ等の外出の機会は多くもてるように支援している。利用者から希望があれば外出するようにしている。また、地域のイベントなどがあれば、積極的に参加している。	気候のいい時の散歩や、月2～3回の買い物、果物狩り等のドライブ、産業祭・花火などの地域イベントなどに外出しており、施設が併設する利点を活かして大型バス等により、他の施設も含め利用者全員で外出する機会も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は管理者が管理しているが、家族の了解のもと利用者が所持している場合もある。利用者自身が支払いをする時は、職員が見守り支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、家族にいつでも電話できるように随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、作業レクリエーションでの作品を飾ったり、飾ることで季節感を感じていただく。また壁には行事ごとの写真や、家族との写真をはり見ていただけるようにしている。空調や照明を利用者の意向に沿い、快適になるように配慮している。	居間は明るく風通しが良く、ゆったりした広さがある。生花等で季節を感じられるようにし、行事の写真は2カ月に1回は入れ替え、利用者の関心を引くようにしている。利用者はそれぞれ気に入った場所で過ごしており、職員は目が届くように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで利用者がそれぞれの空間を作り、日常生活の音を聞きながら、会話を楽しまれたり、一人で静かに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具などを置き、また懐かしい思い出の写真なども飾られている。家族の協力で模様替えなども行われている。ベッド周りの整備や空調管理をして快適に過ごせるようにしている。	居室は十分な広さと清潔感があり、箆笥やテーブルなど馴染みの家具を持ち込み、家族の写真を飾っている。家族が協力して季節ごとに模様替えをするなど、その人らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言をいただきながら介護し、福祉用具を購入するようにしている。廊下などには既存の手すりのほか、状況に応じて手すりなどを追加整備している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない